

「第2回母子健康手帳ウェビナー」における開会のご挨拶

令和3年5月27日

本日、「第2回母子健康手帳ウェビナー」の開催にあたり、このように、オンラインで皆さまにお話しできますことを大変うれしく思います。そして、第12回母子健康手帳国際会議オランダ実行委員会、アムステルダム大学、アムステルダム市保健局、母子健康手帳国際委員会をはじめ、この一連のウェビナーを準備された皆さまに、心から敬意を表します。

母子健康手帳は、妊娠中や育児中の母親、その子どもたちおよび家族のために、とても重要な役割を果たしてきました。そして母子健康手帳は、多くの人々の工夫と努力により改善されてきました。例えば、妊娠、出産、子どもの健康についての説明文やイラストは、地域の人々にとってよりわかりやすくなるよう、使う人の視点に立って改められてきました。私は2018年にバンコクで開催された「第11回母子健康手帳国際会議」に参加しましたが、その時に見せていただいたタイの母子健康手帳を懐かしく思い出します。同じ年には、オランダの「親子センター」を訪れる機会もあり、そこではオランダの母子健康手帳と親向けのスマートフォンのアプリケーションについて教えていただきました。

今年の2月、私は開催された第1回目のウェビナーに参加し、有意義な時間を過ごしました。それぞれの報告において、母子健康手帳を活用することによって、COVID-19により厳しい状況下に置かれている人々を支えていることが、とても印象に残りました。

このように、母子健康手帳に熱心に取り組み、妊娠中や育児中の母親と子どもたちの健康を改善してこられた皆さまに、深く敬意を表します。どうぞ皆さまご自身のお身体も大切になさりつつ、貴重な取り組みを続けてください。

本日のウェビナーは、”Reaching out to vulnerable pregnant women and their partners, preventing early life stress”（弱い立場にある妊娠中の女性とそのパートナーに手を差し伸べ、早期の生活のストレスを防ぐ）のテーマのもとにおこなわれます。妊娠中の女性は、妊娠による心身の変化に戸惑い、不安や抑うつを感じるかもしれません。パートナーに理解してもらうことは重要ですが、それが容易でないこともあります。すべての母親が安心して子どもを出産し、パートナーとともに子どもたちをあたたく育てられるよう、弱い立場にある妊娠中の女性とパートナーを早期に見つけて支えることは、大変重要です。

それは、妊娠中の女性とパートナーの声に耳を傾けることから始まるのではないでしょうか。私は、総裁を務める団体（恩賜財団母子愛育会）の医療専門家と一緒に、周産期のメ

ンタルヘルスについての研修を何度か受けたり、困難を抱える妊娠中の女性や母親に寄り添う保健師のお話を聞いたりしたことがあります。また、日本で「愛育班」と呼ばれる地域のボランティアから、親子支援についてお話を聞くこともあります。こうした経験から、共感を持って傾聴することの重要性を感じました。母子健康手帳は、そのような、よい対話を促す機会にもなると思います。

母子健康手帳は、家庭用の健康記録として女性やそのパートナーの力になるだけでなく、医療や福祉の専門家が彼女らを支える助けにもなります。例えば、妊娠中の女性が母子健康手帳を受け取る時や健診を受ける時、母子健康手帳の使い方について妊娠中の女性と専門家が対話をする中で、見逃していたかもしれないリスクや困難に、専門家が気づくかもしれません。母子健康手帳を活用することは、弱い立場にある妊娠中の女性やパートナーへの支援を一層進めるための、貴重な一歩になることでしょう。

この COVID-19 のパンデミックが続く中、妊娠中の女性はより多くのストレスを抱えがちです。このストレスは、医療・福祉の専門家や地域のボランティアが、母子健康手帳を活用して連携することで、軽減できると思います。もし、妊娠中の女性一人ひとりが母子健康手帳を受け取り、強い不安、抑うつやリスクを抱える人が早く見付き、適切な支援を受けることができたなら、素晴らしいことでしょう。そしてこれは、様々な問題を未然に防ぐことにつながると思います。

今回のウェビナーで、私たちが貴重な経験を共にし、情報を分かち合い、一緒に話し合うことによって、子どもたち一人ひとりが成長し、明るい未来を築いていくことを願っております。

ありがとうございました。